市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-①	優良雌牛導入事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章ー3ー（7）ーア おきなわブランドの確立と生産供給体制の強化
担当部課名	産業振興課	事業実施（予定）年度	平成26～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲー1ー（6）
事業内容	繁殖農家が生産する子牛の品質及び価格の向上を図るため、農家に優良繁殖雌牛を導入する団体に、当該雌牛の導入に係る経費に対して支援を行う。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	31,985	26,625	22,925	25,000	35,000
	(b) 予算現額	31,985	26,625	22,925	25,000	28,045
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	▲ 6,955
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	31,985	26,625	22,925	25,000	28,045
B. 執行済額		31,618	25,574	22,925	21,814	19,689
うち交付金充当額		25,294	20,459	18,340	17,451	15,751
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）		98.9%	96.1%	100.0%	87.3%	70.2%
予算の状況の説明		導入牛のセリ価格の下落の傾向を踏まえ予算6,955千円を減額した。 不用額8,356千円は飼料高騰による導入控えにより想定より導入が伸びなかったことによるものである。				

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況			
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
優良雌牛導入	目　標	（60頭）	（50頭）	（50頭）	（79頭）
	実　績	62頭	54頭	56頭	56頭
達成状況説明	セリ価格の下落による売り手の減少、飼料高騰による畜産農家の導入控えにより目標頭数を下回る実績となった。				

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（　年度）
導入した優良雌牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合	目　標	（　）	（105%以上）	（105%以上）	（106%以上）	（　）
	実　績		106%	106%	108%	
進捗状況説明	・優良雌牛から生まれた子牛の平均価格424,786円、そうでない牛から生まれた子牛の平均価格392,860円となっており、価格差は108%で目標値を達成できた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・導入頭数は計画値を下回ったものの優良雌牛を一定数導入できたことが目標の達成の要因と考えられる。計画的な優良雌牛の導入はもとより、優良雌牛から生まれた子牛を次の世代の母牛としての保留についても強化する必要がある。	・安定した子牛の産地の確立に向けて、計画的な優良雌牛の導入と、優良雌牛から生まれた子牛を次の世代の母牛としての保留セリを促進することで、出荷される子牛全体に占める本事業により導入した母牛から生まれた子牛の割合の引き上げを図る必要がある。

今後の取り組み方針

・計画的な優良母牛の導入については、2期に分けて優良母牛を導入する農家の募集・補助を行い、それぞれ期間内に計画的な導入がされるよう取り組んでいくほか、優良雌牛から生まれた子牛を次の世代の母牛としての保留の促進については、沖縄県農業協同組合と連携して畜産農家向けの説明会等の行い意識づけを強化していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
44,211	19,689	15,751	3,938	24,522

久米島町
19，689千円

補助金
19，689千円

沖縄県農業協同組合
久米島支店
19，689千円

（優良繁殖雌牛導入補助）

（ほか組合負担分（交付対象外経費）
24，522千円）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助事業者は交付要綱に基づき肉用牛（子牛）生産基盤の拡充、強化を図ることのできる沖縄県農業協同組合を選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は畜産業の進行を図る上で必要な経費であり、適正な規模であった。 ○受益者は沖縄県農業協同組合久米島支店であり、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-①	久米島紬販売促進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-（10）-イ 地域資源を活用した特産品の振興
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(4)
事業内容	久米島紬及び関連商品の売上増加を図るため、久米島紬事業協同組合が実施する販促活動を支援する。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,692	1,630	2,106	2,287	2, 560
	(b) 予算現額	1,692	1,630	2,106	3,187	2, 560
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	900	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	1,692	1,630	2,106	3,187	2,560
B. 執行済額		1,294	1,017	1,668	2,752	1,958
うち交付金充当額		1, 035	813	1, 334	2,201	1,566
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）		76.5%	62.4%	79.2%	86.4%	76.5%

予算の状況の説明：不用額602千円は、商品開発の製作数減により生じたものとカタログ製作（電子データ）、旅費の減により生じたものである。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
物産展等への出展	目　標	（　出展　）	（　　）	（　出展　）	（　出展　）
	実　績	1回		3回	1回
呉服店（問屋）へのセールス	目　標	（　実施　）	（　　）	（　実施　）	（　実施　）
	実　績	別事業で実施		1回	0回
試作品の製作	目　標	（　6反　）	（　　）	（ウェディング1着 琉装2着）	（子ども用着物製作）
	実　績	5反		ウェディング1着 琉装2着	製作完了 男5、女3着
アドバイザーの招聘	目　標	（　－　）	（　　）	（　招聘　）	（　招聘　）
	実　績	－		3回	3回

達成状況説明：
- 県内外の物産展は県外の物産展に1回出展した。
- 新商品開発については、子ども用久米島紬で十三祝等の写真撮影の衣装として男の子用5点、女の子用3点製作完了した。
- アドバイザー招聘については、顧客管理や小物類の見直し、価格設定等の研修、勉強会を実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（　年度）
久米島紬及び関連商品の年間売上高 反物売上額	目　標	（　　）	（6,300万円以上）	（6,500万円以上）	（6,446万円以上）	（　　）
	実　績		6,224万円	6,898万円	6,466万円	
久米島紬及び関連商品の年間売上高 小物売上額	目　標	（　　）	（1,200万円以上）	（1,200万円以上）	（1,174万円以上）	（　　）
	実　績		768万円	1,043万円	1,630万円	

進捗状況説明：
- 反物売上額は、生産反数は昨年に比べ増加したほか、一部作品を次年度（R6）の発表としたものの目標値を達成することができた。
- 小物売上額は、販売の機会が確保でき、目標値を達成することができた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・物産展の通常開催や他産地の生産量が減り受注が増えたことが目標達成の主な要因である。 ・観光客等のショップの入館者数は、新型コロナウイルス感染症禍以前には至らなかったものの、昨年に比べ増加傾向にあり、さらに客単価が上がったことが、目標値を上回った要因と考えられる。	・反物の問屋からの需要に対して、織子の生産反数に限りがあり供給が追い付いていない状況である。需要の高まりに対応できる製作技術の向上が必要である。 ・現在のニーズにあった商品（小物）を引き続き製作するとともに、ショップへの誘客を促進する仕組みづくりを行う必要がある。

今後の取り組み方針

・生産数量の安定化に向けて、織子全体のスキルアップを目的とした講習会の開催を検討する。
・アドバイザーを招聘し原価計算や商品分析を行いニーズあった商品を製作するとともに、空港やホテル等にてプロモーション動画を上映し、ショップへの誘客に取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,958	1,958	1,566	392	0

久米島町 1，958千円 ― 補助金 1，958千円 ― 久米島紬事業協同組合 1，958千円 （久米島紬販売促進事業費補助）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先である紬組合は、紬製造業従事者により組織され、実績及び知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。 ○不用額が生じたことから、進捗管理の徹底に努め改善する必要がある。 ○受益者である紬組合は総事業費の1割を負担しており、事業内容や他事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目・使途については精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-②	久米島特産品販路開拓事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-（10）-イ 地域資源を活用した特産品の振興
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-（4）
事業内容	島の特産品の売上増加を図るため、久米島商工会が行う特産品の販促活動やPR活動へ支援を行う。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	11,838	9,814	8,367	8,538	5,793
	(b) 予算現額	11,838	7,665	8,367	8,538	8,004
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 2,149	0	0	2,211
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A.　計 (b+d)	11,838	7,665	8,367	8,538	8,004
	B.　執行済額	10,345	6,033	4,456	8,220	8,004
	うち交付金充当額	8,275	4,826	3,654	6,576	6,403
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）		87.4%	78.7%	53.3%	96.3%	100.0%

予算の状況の説明：新型コロナウイルス感染症の収束に伴い物産展において飲食ブースを設置することとしたため、予算を2,211千円増額し執行した。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
県内外での物産展開催、出展	目　標	（2回）	（5回）	（5回）	（5回）
	実　績	2回（オンライン）	3回（うちオンライン2回）	5回出展（県内3回、県外1回）	4回出展（県内2回、県外2回）
販売促進店舗ガイドマップ作成	目　標	特産品紹介パンフレット英語（10,000部）	（－）	2種（10,000部）	（－）
	実　績	韓国語版・7,000部	－	2種作成 10,000部作成	－

達成状況説明：・県内外での物産展について、県内2回、県外2回出展し特産品のPRを実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R4成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（年度）
開催、出展した物産展における島特産品の販売額	目　標	（）	（3,550万円以上）	（2,352万円以上）	（1,932万円以上）	（）
	実　績		456万円	1,506万円	2,022万円	
	目　標	（）	（）	（）	（）	（）
	実　績					

進捗状況説明：・新型コロナウイルス感染症の収束に伴い各イベントが通常開催でき目標値を達成することができた。

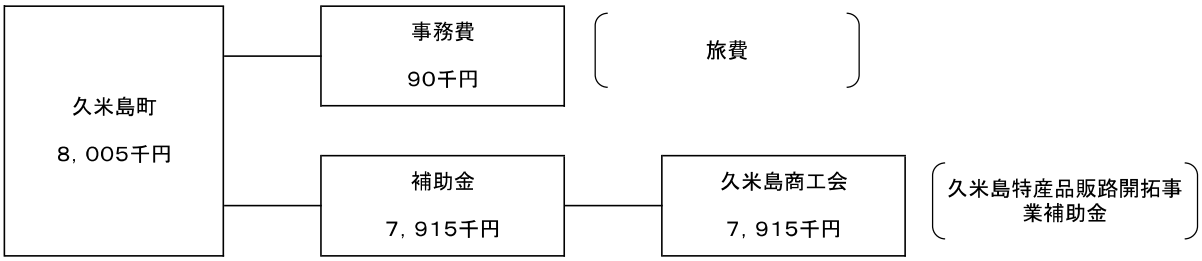
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の収束に伴い各種物産展・催事を通常どおり開催し、飲食の提供や芸能のステージよる集客が図られたことが目標を上回った要因と考えられる。	・特産品販売額の増加に向けて、県内外の郷友会への周知やSNS等を効果的に活用した情報発信に取り組むことで、集客の増加を図っていく必要がある。

今後の取り組み方針

・新たな物産展への出展や新規事業者（新商品）の参加を募るなどお客様が訪れたくなる魅力的なブースを企画し、郷友会への周知やSNS等を効果的に活用してより多くの集客が図られるよう取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,005	8,005	6,403	1,602	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は商工会であり、実績、知識等を勘案した上で選定しており妥当であったと考える。 ○物産展等開催する上で必要な経費であり適正な規模であった。 ○受益者である商工会は総事業費の1割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断して妥当であった。 ○費目、使途については精算段階で検査をしており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-③	地域型就業意識向上支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-（11）ーウ 若年者の活躍促進
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成30～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(2)
事業内容	児童生徒の就業意識の向上を図るため、児童生徒を対象としたキャリア教育等を実施する。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　　年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	10,116	11,369	8,344	8,946	7, 348
	(b) 予算現額	10,116	8,701	7,620	7,491	6, 980
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 2,668	▲ 724	▲ 1,455	▲ 368
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	10,116	8,701	7,620	7,491	6,980
B. 執行済額		10,116	7,759	7,620	6,556	6,259
うち交付金充当額		8,093	6,207	6,096	5,244	5,007
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）		100.0%	89.2%	100.0%	87.5%	89.7%

予算の状況の説明：不用額721千円は、島外インターンシップ(高校)の参加者減少に伴う旅費である。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
ジョブシャドウイング（小）	目　標	（　実施　）	（　実施　）	（　実施　）	（　実施　）
	実　績	実施	一部未実施	実施	実施
インターンシップ（高）	目　標	（　実施　）	（　実施　）	（　実施　）	（　実施　）
	実　績	実施	内容を変更して実施	内容を変更して実施	実施
職場体験（中）	目　標	（　実施　）	（　実施　）	（　実施　）	（　実施　）
	実　績	一部未実施	一部未実施 他内容を変更し実施	一部未実施 他内容を変更し実施	実施
職業人講話（小中高）	目　標	（　開催　）	（　開催　）	（　開催　）	（　実施　）
	実　績	内容を変更し実施	内容を変更し実施	内容を変更して実施	実施
就業体験型イベント（小）	目　標	（　実施　）	（　実施　）	（　実施　）	（　実施　）
	実　績	実施	内容を変更して実施	実施	実施
グッジョブ連携協議会の開催	目　標	（　開催　）	（　開催　）	（　開催　）	（　開催　）
	実　績	開催	開催	開催	開催
追跡調査の実施	目　標	（　　）	（　実施　）	（　実施　）	（　実施　）
	実　績		実施	実施	実施

達成状況説明
- ジョブシャドウウイング（小）は、15事業者が児童を受入れ実施した。
- インターシップ（高）は、31事業者が生徒を受入れ実施した。うち4事業者の新規受入れ先を開拓した。
- 職場体験（中）は、21事業者が生徒を受入れ実施した。
- 職業人講話は、小学校6名、中学校2名、進路講話では高校へ4事業所11名の講師による講話を実施した。
- 就業体験型イベント（小）は、改善センターにてわくわくワーク体験を全小学校(6校)合同で行った。
- グッジョブ連携協議会は、計画どおり開催した。
- 事業効果を検証する追跡調査は、計画どおり実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（　年度）
各種取組に参加した児童生徒へアンケートを実施し、「職業に対して『良いイメージ』」と回答した割合	目　標	（　　）	（　90%以上　）	（　80%以上　）	（　80%以上　）	（　　）
	実　績		86%	92%	94%	
小中高と本事業のプログラムを実施してきた18歳の生徒へ追跡調査を実施し、「将来、本町で仕事につきたい」と回答した割合	目　標	（　　）	（　80%以上　）	（　50%以上　）	（　65%以上　）	（　　）
	実　績		63%	48%	35%	

進捗状況説明
- 就業に対して良い印象を抱いた割合は小学生が95%、中学生が94%、高校生が94%となり、平均94%で目標値を大きく上回った。
- 中学卒業後4年目（18歳）の者を対象にアンケートを実施したところ、本町で仕事に就きたいと回答した割合は目標値を大きく下回った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・受入事業者は前年度より減ったものの、受入事業者における体験内容等の質の改善をしたことが目標を上回った要因と考えられる。 ・中学卒業後4年目（18歳）の者の本町における就労意識の低下については、年齢的に久米島町にない進学又は職業の選択肢から町外を選択せざるを得ないことが目標を下回った要因と考えられる。	・児童生徒の関心や考えを把握した上で、教諭と意見交換しながら各プログラムの内容の見直しを行い、児童生徒の就業に対するイメージの向上を図る。 ・島内で就職希望をする18歳の者は、この時点では少ないが、将来的に久米島町に戻り働くことを考えてもらえるよう、引き続きキャリア教育を通じて学生の時期に本町の産業の魅力を伝えていく。

今後の取り組み方針

・児童生徒を受入れる事業者が、教諭と意見交換をして決定した各プログラムの実施内容の徹底するよう協力を求めていく。
・久米島町の産業の魅力や働き方の特異性等を児童生徒に伝える内容も各プログラムに盛り込むことで児童生徒の関心を高めていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,259	6,259	5,007	1,252	0

久米島町
6，259千円
→
委託料
6，259千円
→
オフィス崎村
6，259千円
（就業意識向上支援事業委託）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はプロポーザルにより実績、ノウハウ等を勘案した上で随意契約により選定しており妥当であると考える。 ○一部不用額が生じたが、その他適正な予算規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-④	ブランディングサポート事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-（10）-イ 地域資源を活用した特産品の振興
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	令和4～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-9-（2）
事業内容	既存の特産品のブラッシュアップや、ブランディング方法をサポートすることで、事業者の売上の向上、経営の安定化を図る。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　　年度）				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,208	2,353			
	(b) 予算現額	1,208	2,353			
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	1,208	2,353	0	0	0
B. 執行済額		1,208	2,190			
うち交付金充当額		966	1,752			
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	93.1%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		・計画どおり執行できた。				

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ブランディング講習会	目　標	（10回）	（2回）	（　）	（　）
	実　績	6回	2回		
商品開発におけるモニター調査	目　標	（　）	（3商品）	（　）	（　）
	実　績		7商品		
ハンズオン支援	目　標	（　）	（6回）	（　）	（　）
	実　績		7回		
沖縄県内先進地視察	目　標	（1回）		（　）	（　）
	実　績	1回			

達成状況説明
・ブランディング講習会は目標どおり2回開催した。
・商品開発におけるモニター調査は6商品の商品化を達成し、販売会を実施した。
・ハンズオン支援はディスプレイの専門や、よろず支援拠点の専門家を招き、商品ディスプレイ、原価計算、セールスに関する個別相談を7回実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R3成果目標（指標）		基準値（年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（年度）
セミナー参加事業所へアンケートを行い「事業継続していく上で効果があったか」の問いに対する「効果的であった」と回答した割合80%以上	目　標	（　）	（80%以上）	（80%以上）	（　）	（　）
	実　績		100%	100%		
特産品売上額	目　標	（　）	（　）	（8,349千円以上）	（　）	（　）
	実　績			13,273千円		

進捗状況説明
・セミナー参加事象者（13事業者）の全員から効果があったと回答があった。
・特産品売上額は目標値を大幅に上回った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・全体でのセミナー、個別相談を継続して行うことで、各事業所の既存商品等に必要な部分や工夫すべき点を確認することができたほか、試作品の製作に係る補助も行い、応募のあった7事業者は新たな商品化を達成することができたことが目標を上回った要因と考えられる。	・更なる特産品売上額の増加に向けて、令和5年度に実施した事業者から他の事業者に取組内容を報告する機会を設け、商品化を達成した各事業者にどういった個別相談やブラッシュアップ等を行ったかなど他事業者へ取組内容の共有を図る必要がある。

今後の取り組み方針

・令和5年度で新たな商品化を達成することができたので、R6年度にそれらの商品を各店舗やふるさと納税返礼品として、出品していくとともに、更に多くの事業者へ参加してもらえるよう募集活動を強化していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,190	2,190	1,752	438	0

久米島町 2，190千円 ― 補助金 2，190千円 ― 久米島商工会 2，190千円

（ブランディングサポート事業補助金）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先である久米島商工会は、島内事業者の支援機関として組織された公的機関である。また実績及び知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は島内事業者の振興を図る上で必要な経費であり適正な規模であった。 ○受益者である久米島商工会は総事業費の1割を負担しており、事業内容や他事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目・使途については精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-①	観光誘客促進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ 多彩かつ質の高い観光の推進
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成26～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

観光地としての知名度向上を図るため、「久米島観光の日」イベントの開催や県内外のイベントでのプロモーション活動を行うとともに、観光閑散期対策としてチャーター便を活用した久米島、宮古島周遊ツアーの造成に向けた支援を行う。また、観光客の利便性を確保するため、久米島空港内に観光案内所を設置する。

効果発現年度

■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	10,520	7,299	8,119	8, 119	23, 421
	(b) 予算現額	8,882	6,510	8,119	11, 136	21, 248
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,638	▲ 789	0	3,017	▲ 2,173
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	8,882	6,510	8,119	11,136	21,248
B. 執行済額		7,957	5,748	6,275	9,256	18,808
うち交付金充当額		6,365	4,598	5,020	7,405	15,046
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）		89.6%	88.3%	77.3%	83.1%	88.5%

予算の状況の説明

当初予定していたチャーター便誘致に係る費用を分割して委託を検討していたが、１社へ委託し行うことで業務効率化が図れるため、2,173千円の減額を行った。
不用額2,440千円は、チャーター便運航の集客やイベント出展等の実費精算分によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
・久米島空港観光案内業務	目　標	（　3名体制　）	（　3名体制　）	（　3名体制　）	（　3名体制　）
	実　績	3名	3名	2名	3名
・観光広報活動（久米島観光の日イベント開催、県内イベント3件、県外イベント1件参加）	目　標	（　3件　）	（県内4件 県外1件）	（県内4件 県外1件）	（県内3件 県外1件）
	実　績	1件	県内1件 県外0件	県内2件 県外0件	県内3件 県外2件
・離島周遊ツアー便12回就航	目　標	（　　）	（　　）	（　造成　）	（　12回　）
	実　績			未実施	12回

達成状況説明

・久米島空港観光案内業務は、東京～久米島の直行便就航時期は多くの観光客が来島されるため、通常2名シフト体制の他、1名追加し、本町に訪れる観光客に対しての観光案内に加え、台風等の非常時に際しての対応を行うことができた。
・観光広報活動は、県内外でのイベントが通常開催されるなか、効果的かつ効率的に広報活動を行うことができた。
・離島周遊ツアー便は、6往復12回の就航を行うことができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（　年度）
久米島に旅行でいま訪れてみたいと回答した割合（80%以上）	目　標	（　　）	（80%以上）	（80%以上）	（80%以上）	（　　）
	実　績		未実施	未実施	98%	
離島周遊ツアー参加人数2,160人	目　標	（　　）	（　　）	（50名）	（2,160名）	（　　）
	実　績			未実施	510名	

進捗状況説明

・イベント出店時のブース来訪者に観光プロモーションを行った。アンケートの結果から目標を達成できた。
・チャーター便の就航は実現に至ったものの目標値には届かなかった。

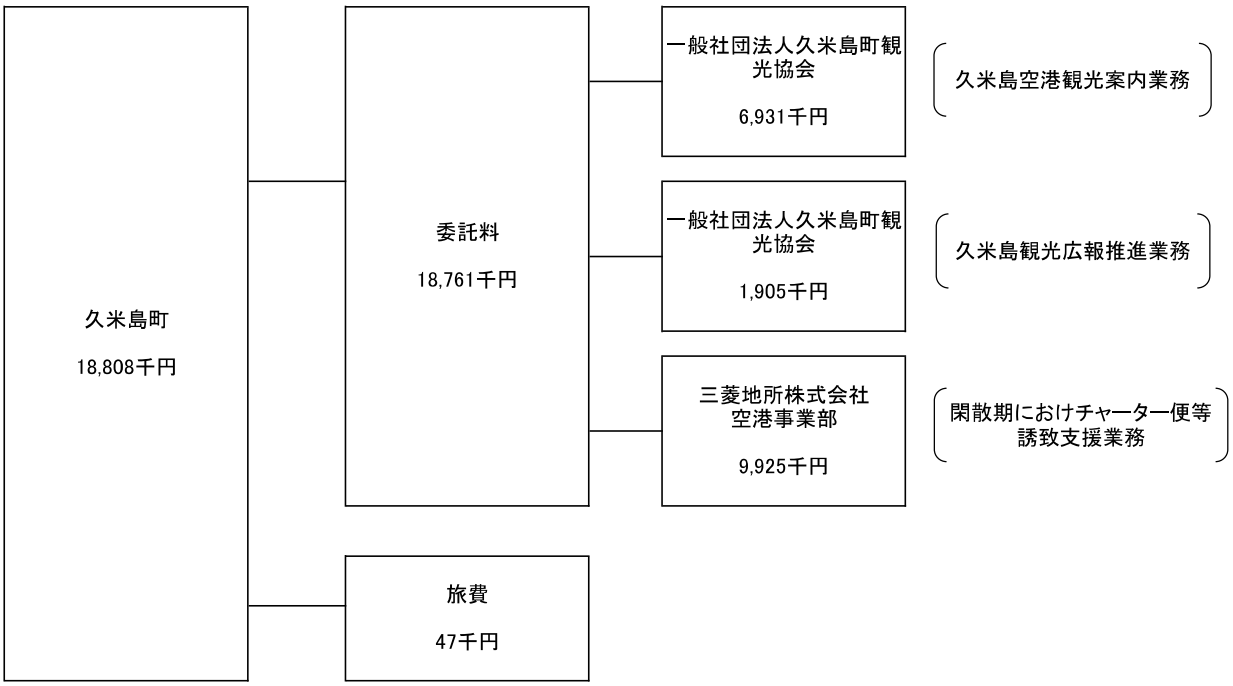
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・目標は達成できたものの実際に来島（誘客）に繋がり、広報として効果的なものかといった検討が必要である。 ・当初計画していたチャーター機材の規模の縮小、就航期間の縮小が目標を下回った要因と考えられる。	・アンケート内容や実施方法の見直しを検討する。 ・R5年度チャーター便機材確保ができたが、R6年度以降も同じパターンで機材確保ができるとは限らないことから、引き続き、チャーター便機材の確保に向けた調査を行う。また、就航期間で集客のバラつきがあったため、時間帯や時期の見直しを行い、万遍なく誘客を行う必要がある。

今後の取り組み方針

・イベント出店時のプロモーションによる来島の動機付けを引き続き行いつつ、実際に来訪された方が特定できるように観光事業者と連携したアンケートを検討していく。
・チャーター便を引き続き就航していくに当たり、閑散期における誘客の増加に向けて就航の時期やターゲット層の見直しを早期に行った上で機材確保に向けた事業者へのアプローチを行っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
18,808	18,808	15,046	3,762	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は町内の観光事業者の多くが加盟し、会員間、地域、行政と連携して観光振興事業を総合的に推進することができる団体及び空港の運営、航空事業者や旅行商品販売事業者との調整が可能な知識を有する事業者を選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は観光誘客に必要な経緯であり、適正な規模であった。 ○費目・使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-②	体験交流型観光商品開発販売促進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-（1）-イ 地域・産業間連携による「稼ぐ力」の向上
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成26～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-（1）
事業内容	観光関連商品の売上増加を図るため、観光体験プログラムの販売促進及び民泊受入体制の整備・強化を行う。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,841	5,087	9,998	9, 998	15, 369
	(b) 予算現額	5,184	10,809	9,998	14, 244	14, 586
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,657	5,722	0	4,246	▲ 783
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	5,184	10,809	9,998	14,244	14,586
B. 執行済額		3,890	6,428	6,154	12,468	13,902
うち交付金充当額		3,112	5,142	4,923	9,974	11,122
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）		75.0%	59.5%	61.6%	87.5%	95.3%

予算の状況の説明：教育旅行受入人数の見込が減ったため、783千円の減額となった。
不用額684千円は、県外で予定していた教育旅行誘致活動が、島内における団体客受入と時期が重なり、実施することができなかったこと、教育旅行参加人数が見込数より更に減ったことによるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
・教育旅行誘致活動	目　標	（　）	（　）	（　）	（13回）
	実　績				3回
・教育旅行誘致学校数、受入人数	目　標	（　）	（　）	（　）	（12校 1,300人以上）
	実　績				9校 1,500人

達成状況説明：
・教育旅行誘致活動では、島内受入（学校や招聘対応）と誘致活動が重なり、思うように誘致活動が行えなかった。
・学校数は目標が達成できなかったが、受入人数は達成した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（年度）
観光体験プログラム売上額　一般	目　標	（　）	（2,786,683円以上）	（2,786,683円以上）	（1,853,511円以上）	（　）
	実　績		106,755円	2,277,550円	2,189,050円	
観光体験プログラム売上額　教育旅行	目　標	（　）	（14,056,279円以上）	（14,056,279円以上）	（9,140,653円以上）	（　）
	実　績		530,750円	11,391,500円	13,794,110円	

進捗状況説明：
・一般は、対昨年度からは減額しているが目標は達成した。
・教育旅行は、対昨年度2,402,610円の増加し目標を達成した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・羽田空港から直行便で久米島町に訪れる方向けに体験プログラムのPRを実施し利用に繋がったことが目標を上回った主な要因と考えられる。 ・新たな体験プログラムを作成し団体客（教育旅行）への誘致や体験プログラムの選択の幅を広げたこと、万遍なく体験プログラムへの集客を行ったことで、効率化が図られより多くのガイド収入に繋がったことが目標を達成した要因と考えられる。	・体験プログラムの受入人数が多ければガイド収入へ繋がることから、既存の体験プログラムの1回あたりの受入人数を見直す必要がある。 ・現在の教育旅行の受入は、10月～12月の時期に集中しているが、同時期の受け入れは上限に達しているため、同月以外の時期に受入の分散を行うことや、特に観光閑散期の4月～6月の受入増加の見込があるか調査、検討を行う必要がある。

今後の取り組み方針

・島内受入体制の強化ならびに、既存体験プログラムの受入人数の見直しに向けてガイドや受入側との協議していく。
・4月～6月をはじめ観光閑散期における教育旅行の誘致に向けて、受入体制の調整や、教育旅行を行う学校側への諸条件の確認等を実施していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,902	13,902	11,122	2,780	0

久米島町 13,902千円 → 委託料 13,902千円 → 一般社団法人 久米島町観光協会 13,902千円

（体験交流型観光商品開発販売促進事業委託）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は町内の観光事業者の多くが加盟し、会員間、地域、行政と連携して観光振興事業を総合的に推進することができる団体を選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は目標を達成するために必要とされる適正な予算規模になっている。 ○費目・使途について、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-③	航空運賃コスト負担軽減事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(8)-ア 人流・物流のｺｽﾄ低減と情報通信基盤の強化
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成30～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容	久米島へ来訪する方の渡航費負担を軽減することで、観光入域者数の増加を図るため、航空事業者が観光客等に対して運賃を割り引いて販売した際の差額分を補填する。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	□直接実施　□委託　□補助　■負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	16,200	15,700	15,700	15,700	
	(b) 予算現額	13,500	15,700	13,100	3,760	
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,700	0	▲ 2,600	▲ 11,940	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	
	A. 計 (b+d)	13,500	15,700	13,100	3,760	
	B. 執行済額	8,358	9,261	11,672	2,201	
	うち交付金充当額	6,686	7,408	9,338	1,761	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		61.9%	59.0%	89.1%	58.5%	

予算の状況の説明：当初予算で15,700千円を計上していたが、入域客の実績に応じて11,940千円を減額し実施した。

活動目標（指標）及び達成状況

R5年度活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
交流人口を対象とした航空運賃割引の実施	目　標	（航空運賃の補助）	（航空運賃の補助）	（航空運賃の補助）	（航空運賃の補助）
	実　績	航空運賃の補助	航空運賃の補助	航空運賃の補助	航空運賃の補助

達成状況説明：6,858人の旅客者に対して航空運賃を補助した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5年度成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（年度）
久米島町への観光入域者数　130,000人以上	目　標	（　）	（122,000人以上）	（126,000人以上）	（130,000人以上）	（　）
	実　績		54,206人	84,779人	98,082人	

進捗状況説明：・新型コロナウイルス感染症の収束により、入域者数に若干の回復が見受けられたが、目標を達成できなかった。

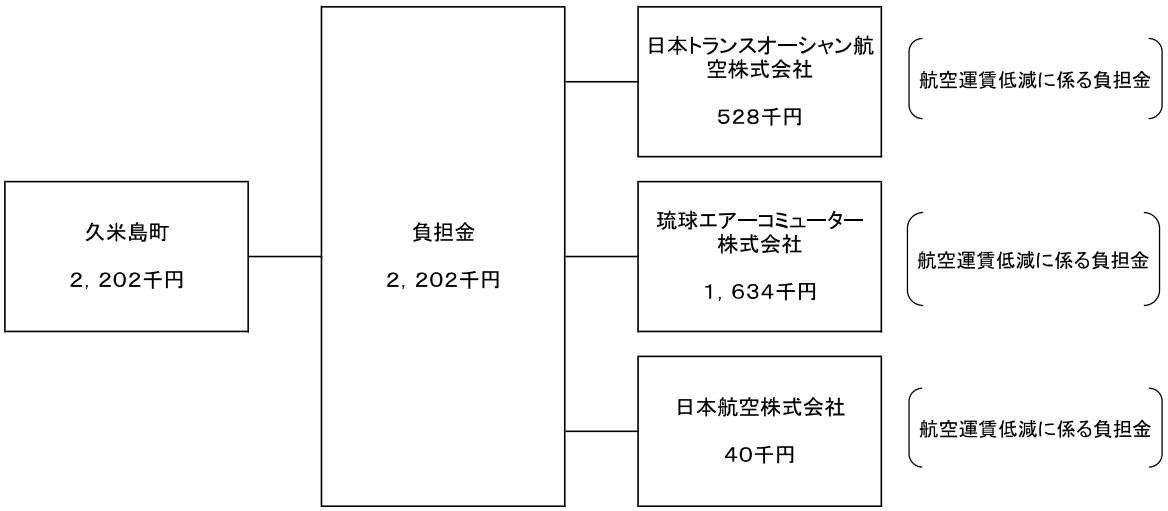
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・新型コロナウイルスは収束したものの、未だ影響は尾を引いており、久米島町への入域者数が目標まで伸びなかった。他の地域における誘客の取組よりも受入体制や、アプローチが必ずしも十分でなかったことが目標を下回った主な要因と考えられる。	・R5年度の観光入域者数は、前年度より15%増えたものの、他の地域と比較して緩やかな伸びとなっていることを踏まえ、本事業の周知はもとより、他事業との連携により入域客数の増加を図っていく必要がある。

今後の取り組み方針

・R6年度から始まる「第3次久米島町観光振興基本計画」に掲げる目標値（令和10年度観光入域者15万人）と、この達成に向けた取組を計画的に進めていくほか、航空事業者及び観光・サービス業の関係者県と連携を密にし、円滑な事業執行に取り組んでいく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,202	2,202	1,761	441	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については久米島と沖縄本島を結ぶ航空会社3社を選定している。費用負担の協定書を締結のうえ実施しており、選定方法は妥当である。 ○新型コロナウイルス等の影響及び運賃体系の変更により搭乗者数が伸びず不用が生じたが、予算規模については、事業内容に見合った適正な規模であった。 ○費目、使途については、事業目的の観点から精算時に精査しており、適正であった。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-④	久米島観光ブランディング事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-（2）-ウ 多彩かつ質の高い観光の推進
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	令和4年度～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-（1）
事業内容	観光客への認知度満足度を高めるため、「食」をテーマとしたブランド化に向けたご当地グルメや特産品・お土産の販売促進を行い、島内消費拡大を図る。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
予算の状況	(a) 当初予算額	9,295	13,068			
	(b) 予算現額	9,295	11,979			
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 1,089	0	0	0
	(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)	9,295	11,979	0	0	0
B. 執行済額		7,040	10,125			
うち交付金充当額		5,632	8,100			
次年度繰越額		0	0		0	0
執行率（%）(B/A)		75.7%	84.5%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明：当初計画していた広告宣伝の見直しを行い、1,089千円の減額となった。
不用額1,854千円は再委託費の効果的なプロモーションの見直しや実費精算によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ご当地グルメの開発（品）	目標	（2）	（2）	（　）	（　）
	実績	1	0		
新たな特産品・お土産物の開発（件）	目標	（2）	（2）	（　）	（　）
	実績	0	0		

達成状況説明：今年度は令和4年度に開発したご当地グルメの販売、プロモーションを行ったため、新たな商品開発は行うことが出来なかった。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（年度）
観光消費額（食事・お酒）	目標	（　）	（　）	（12,851円以上）	（　）	（　）
	実績			14,135円		
観光消費額（お土産・買い物）	目標	（　）	（　）	（8,329円以上）	（　）	（　）
	実績			8,957円		

進捗状況説明：目標はそれぞれ達成できたものの、本事業の取組による効果がどの程度あったのか把握できるようにする。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・令和4年度に開発されたご当地グルメを用い、販売プロモーションを行ってきたが、販売数が少ない状況にあることから、一層の観光消費額増加に向けて販売数の増加に取り組む必要がある。 ・令和4年度に決定したご当地グルメの定義やルールの縛りが厳しすぎて、新規に参加する飲食事業者が増えない状況にあることを把握した。	・開発したご当地グルメを販売するターゲットの再設定や、当該グルメの内容を見直すことで販売数の増加を図る。 ・新規に参加する飲食事業者が気兼ねなく取組めるご当地グルメの定義やルールの再構築について検討する。

今後の取り組み方針

・開発事業者と連携して、これまでにどういった場面で、どういった客層から注文があったかなど販売実績を踏まえて開発したご当地グルメのブラッシュアップを行い、販売数の増加につなげていく。
・新規参加する飲食事業者の確保に向けて、飲食事業者それぞれがターゲットととする客層や価格設定を踏まえた久米島ならではのご当地グルメの定義やルールの再構築について検討を行い、飲食事業者が売りやすく、観光客にとっても「久米島に来たらこれを食べよう」と思えるご当地グルメの開発につなげていくほか、島全体の「食」をテーマとしたプロモーションを行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,125	10,125	8,100	2,025	0

久米島町 10,125千円 → 委託料 10,125千円 → 一般社団法人くめじまDMO 10,125千円 （久米島観光ブランディング事業）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は町内の経済5団体で組織され、観光を核に地域産業を網羅した経営の牽引・舵取りを担い取り組む団体を選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は目標を達成するために必要とされる適正な予算規模になっている。 ○費目・使途について、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑤	観光地等環境美化強化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア
担当部課名	環境保全課	事業実施（予定）年度	令和５～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	「新しい生活様式／ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進 Ⅲ-10-(1)

事業内容	魅力的な観光地としての景観形成を図るため、観光地として利用されている広場等の環境美化作業を行う。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	46,596				
	(b) 予算現額	47,966				
	(c) 増減額 (b-a)	1,370	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	47,966	0	0	0	0
B. 執行済額		47,966				
うち交付金充当額		38,372				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明：当初計画の事業はすべて完了したほか活動目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
町内45ヵ所の環境美化作業	目標	（作業）	（　）	（　）	（　）
	実績	作業実施			
	目標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実績				

達成状況説明：計画どおり観光地及び関連施設・道路の草刈り等の環境美化作業を実施できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（年度）
観光客に対してアンケートを行い「魅力的な観光地として景観形成が図られたか」に対して思うと回答した割合が80%以上	目標	（　）	（80%）	（　）	（　）	（　）
	実績		85.7%			
【参考指標】	目標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実績					

進捗状況説明：観光客に対してアンケートを実施したところ目標値を上回る満足度であった。

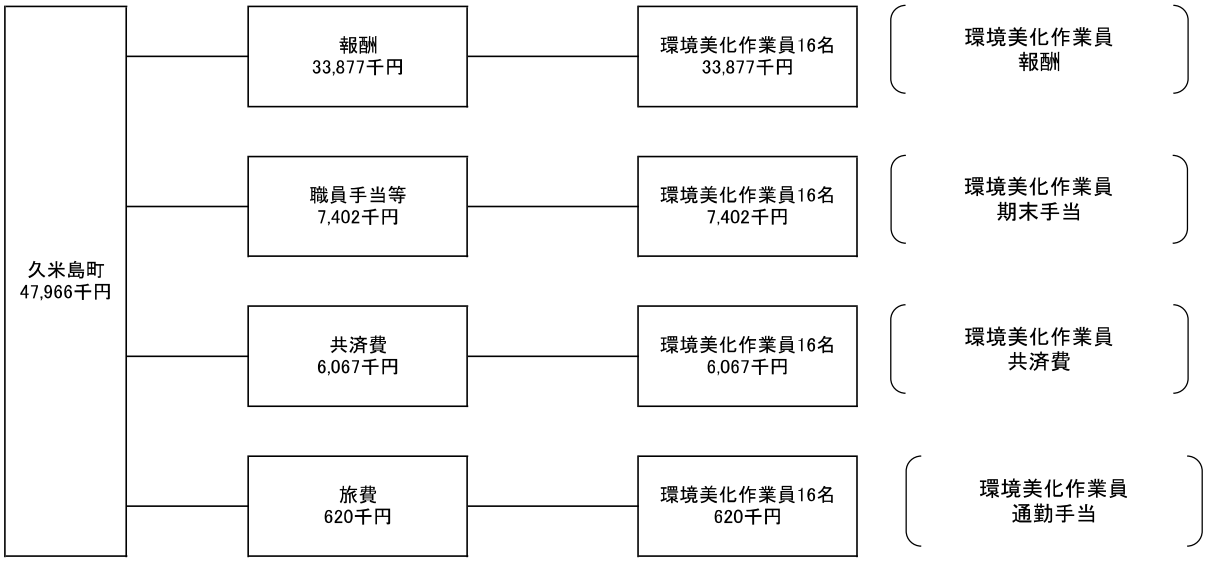
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	年間を通して観光地及び関連施設・道路の草刈り等の環境美化作業を実施することができて、観光地としての景観が良くなってきていることが目標を上回った要因と考えられる。	夏場にかけては雑草等の繁殖・成長が早く、活動が活発化するハブの咬傷被害も懸念されることから、より効率的な環境美化作業の実施に取り組み観光客等の安全を確保する必要がある。

今後の取り組み方針

危険又は景観が損なわれやすい観光地及び関連施設・道路と、そうでない箇所の美化作業実施の頻度を検討することで作業の効率化を図り、安全安心な環境と誰もが快適に過ごせる魅力的な観光地らしい景観を形成していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
47,966	47,966	38,372	9,594	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○久米島町会計任用職員任用規定に基づき採用しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は、観光地等環境美化強化事業を推進するうえで、妥当な規模であったと考える。 ○会計年度任用職員給料表に基づき支出しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑥	アウトドアツーリズム展開促進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-（2）-ウ 多彩かつ質の高い観光の推進
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	令和5～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-（1）

事業内容

新たな旅のスタイルとして注目されているアウトドアツーリズムを、奥武島キャンプ場を拠点に商品化及び販売促進し、久米島観光における新たな付加価値の創出と消費拡大を図る。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	9,607				
	(b) 予算現額	7,482				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,125	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	7,482	0	0	0	0
B. 執行済額		6,639				
うち交付金充当額		5,311				
次年度繰越額		0				0
執行率（%）（B/A）		88.7%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明：予算の減額は契約締結に伴う執行残を減額したものである。
概ね計画どおり予算を執行した。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
アウトドアツーリズム関連商品開発（件）	目　標	（ 5 ）	（　）	（　）	（　）
	実　績	3			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：アウトドアツーリズム商品5件の開発を目標として取り組み、①地元食材のBBQプラン、②地元マリンアクティビティー事業者との提携プログラム、③キャンプファイヤー　など3件の商品開発を行った。そのほか、利用者からのリクエストに応じて滞在プランをカスタマイズできるようスタッフのスキルアップを図った。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（H30年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
奥武島キャンプ場の利用者数（人）	目　標	（ 872 ）	（ 1,000 ）	（　）	（　）	（　）
	実　績		1,399			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：・新型コロナウイルス感染症禍以前の利用や実績数を勘案し、キャンプ場利用者数1,000人を目標として設定した結果、1,399人の利用があり目標を達成した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・利用者数の増加を目指して、利用者の利便向上のためテントの設置サービスやWEB予約システムの活用などを行った。また、キャンプ場を拠点としたイベント開催について、地元商工会や事業者とタイアップして実施したことが、島内での認知度向上につながり、目標を達成した要因と考えられる。	・アウトドアツーリズムを展開していくうえで、離島でのキャンプは道具の準備等の面でハードルが高く、キャンプを含んだ旅行ニーズが当初想定よりも低い状況にある。改めてニーズを把握したうえで、当初よりターゲットとしているライトユーザー向けのサービス（テント組立代行、プランのカスタマイズ提案）の強化や、送客力のある旅行会社と提携した商品開発を模索してく必要がある。

今後の取り組み方針

・離島におけるキャンプを含めた旅行商品開発に向けて旅行会社との提携や地元の各種体験プログラム提供事業者との連携を図り、更なる利用者及び消費額の増加を目指す。また、イベント会場としての活用やロケーションの優位性（離島の離島という特別感、ビーチに隣接している点）を活かしたプロモーションを展開していくほか、送客力のある旅行会社と提携した商品開発に向けて取り組んでいく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
11,881	6,639	5,311	1,328	5,242

久米島町
6,639千円

委託料
6,639千円

合同会社PLUCK
6,639千円

（アウトドアツーリズム展開促進事業）

（ほか、町負担分（交付対象外経費）
5,242千円）

資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は目標を達成するために必要とされる適正な予算規模になっている。 ○費目・使途について、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑦	離島住民航空運賃負担軽減事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-（8）-ア 人流・物流のコスト低減と情報通信基盤の強化
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	令和5年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-9-(2)

事業内容

久米島町民にとって生活路線として必要不可欠である那覇～久米島を結ぶ航空路の運賃が値上げされることから、激変緩和措置として半年間限定で運賃低減を行い、急激な住民負担の増加を抑制する。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　□直接実施　□委託　□補助　■負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	9,200				
	(b) 予算現額	17,428				
	(c) 増減額 (b-a)	8,228	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	17,428	0	0	0	0
B. 執行済額		17,428				
うち交付金充当額		13,942				
次年度繰越額		0				0
執行率（%）(B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明：利用状況に応じて事業費を増額し計画どおり執行できたと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R　年度	R　年度	R　年度
航空運賃値上分割引率：町230円	目　標	（230円）	（－）	（－）	（　）
	実　績	230円	－	－	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：沖縄県との協働による実施で、本町は片道230円の補填を実施することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R　年度	R　年度	目標値（　年度）
負担軽減された離島住民の利用者数：40,000人以上	目　標	（－）	（40,000人以上）	（－）	（　）	（　）
	実　績		37,887人	－		
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：本事業を活用して、航空運賃が負担軽減された離島住民の利用者数は37,887人で目標値を下回ったが、町民の交通手段である航空機の運賃値上げに対する緩和措置として混乱もなく、円滑に負担軽減事業を実施することができた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・新型コロナウイルス感染症の収束に伴い大幅な増加を想定していたところ、目標を下回った要因としては、物価高騰に伴う経済的な負担が想定以上に生じ、渡航を自粛せざるを得ない世帯が生じたと考えられる。	・R5年度は、緊急的な措置として町民の負担を軽減することができたが、引き続き町内にはない福祉・医療サービスをはじめ各種目的のために沖縄本島に渡航する住民の経済的な負担を軽減することで、離島の条件不利性を解消していく必要がある。

今後の取り組み方針

・R5年度の下半期からは沖縄県が負担軽減事業を継続して実施している。引き続き、航空事業者、沖縄県と連携し町民の交通手段である航空運賃の負担軽減に取り組んでいく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
17,428	17,428	13,942	3,486	0

久米島町
17，428千円

負担金
17，428千円

日本トランスオーシャン航空株式会社
3，903千円
（離島住民の航空運賃低減に係る負担金）

琉球エアーコミューター株式会社
13，252千円
（離島住民の航空運賃低減に係る負担金）

日本航空株式会社
273千円
（離島住民の航空運賃低減に係る負担金）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については久米島と沖縄本島を結ぶ航空会社3社を選定している。費用負担の協定書を締結のうえ実施しており、選定方法は妥当である。 ○予算規模については、事業内容に見合った適正な規模であった。 ○費目、使途については、事業目的の観点から精算時に精査しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑧	持続可能な観光地域づくり戦略検討事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章ー3ー(2)ーウ 多彩かつ質の高い観光の推進
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	令和5年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

観光消費額の向上や滞在日数の延長など多彩かつ質の高い観光産業の構築のため、第3次久米島町観光振興基本計画（計画期間：令和6年～令和10年）を策定し、着実かつ計画的に施策を展開する。

効果発現年度　□当年度　■後年度（令和8年度）

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	8,910				
	(b) 予算現額	8,310				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 600	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	8,310	0	0	0	0
B. 執行済額		8,310				
うち交付金充当額		6,684				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明：契約締結に伴う執行残が生じため、委託料600千円を減額した。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
第3次久米島町観光振興基本計画の策定	目　標	（　策定　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	策定完了			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：令和5年度中の策定を目標として取り組み、当初予定通りに策定した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（R1年度）	基準値（R4年度）	R5年度	R6年度	目標値（R8年度）
第3次久米島町観光振興基本計画の策定	目　標	（　　）	（　　）	（　策定　）	（　　）	（　　）
	実　績			策定完了		
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：策定した第3次久米島町観光振興基本計画はR6年度からR10年度まで5年間を計画期間としたことから、本計画に掲げる目標の達成に向けて、計画の中間点にあたる年度において達成しなければならない成果目標（指標）を定めた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	平成31年度から令和5年度までを計画期間とする第2次久米島町観光振興基本計画における取組状況を検証するとともに、コロナ禍を経て変容した旅行者ニーズや観光地としての在り方を再検証し、「観光」がもつ力を、島の未来を創るための手段として捉え、より持続可能な観光街づくり戦略としての第3次観光振興基本計画を策定した。	第3次観光振興基本計画では「持続可能な島の未来をつくる、共創ツーリズム」を基本理念に掲げ、その実現に向けて4つの基本方針及び6つの取組方針を策定し、今後5年間で優先的、重点的に取り組むアクションプロジェクトを設定した。

今後の取り組み方針

本計画の実現に向け、観光団体、経済団体、観光関連事業者などの関係者のみならず、島民を含めた“島ぐるみ”で取り組むための推進体制を示すことで、各組織・団体が主体的に取り組むべき事項や役割について共通理解を図っていくほか、アクションプロジェクトでは各テーマごとにKPIを設定するとともに、今後の取り組みを推進するロードマップを策定し、計画の進捗管理を行っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,310	8,310	6,648	1,662	0

久米島町
8,310千円

委託料
8,310千円

RPI株式会社
8,310千円

（第3次久米島町観光振興基本計画策定業務）

資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザルにより選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は目標を達成するために必要とされる適正な予算規模になっている。 ○費目・使途について、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑨	スポーツコンベンション推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(9)-ア ｽﾎﾟｰﾂ関連産業の振興と地域の活性化
担当部課名	環境保全課	事業実施（予定）年度	令和5～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

スポーツキャンプ・合宿の受入数の増加を図るため、野球場及び多目的グラウンドの土・芝生をプロ野球チームに求められる水準を満たす競技場環境に整備する。

効果発現年度　■当年度　□後年度（令和　年度）

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	23,446				
	(b) 予算現額	23,436				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 10	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	23,436	0	0	0	0
B. 執行済額		23,436				
うち交付金充当額		18,749				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明：事業はすべて完了したほか活動目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
野球場、多目的運動場の高品質（透水性・硬度・均一性等）な土・芝生の整備・管理	目　標	（　整備・管理　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	整備・管理			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：専門的な知識や技術のある業者に委託し整備を進めた結果、事業開始時よりかなり状態が改善し、効果的なトレーニングが行える環境が整いつつある。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（R4年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
スポーツキャンプ・合宿受入件数	目　標	（　8件　）	（　10件　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		8件			
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：・R4年度と同数の受入に留まり目標値を下回った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・本事業により野球場及び多目的グラウンドの土・芝生等の競技環境が向上し、スポーツキャンプ・合宿団体から良い評価を受けたものの、仲里野球場において隣接する屋内練習場の故障により利便性が低下したこと、プロ野球球団のキャンプ実施決定時期の関係で大学、社会人団体の誘致が必ずしも十分にできなかったことが目標を下回った要因と考えられる。	・2野球場いずれも屋内練習場が利用できる環境を整え、悪天候時を含め受入団体が効率的・効果的にトレーニングできる環境を整えるほか、2球場同時に異なる団体の合宿を受入れることで対外試合（練習試合）等の実施が可能となりキャンプ地としての魅力が高まることから、プロ野球球団のキャンプ決定時期を早期にできるよう球団側と調整を進め、キャンプ・合宿団体の誘致活動に取り組む必要がある。

今後の取り組み方針

・引き続き、野球場及び多目的グラウンドの土・芝生等の競技環境の向上はもとより、屋内練習場の確保の目途を立てたうえで、プロ野球球団や、8月の早い時期から大学・社会人の合宿誘致活動を強化的に行っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
23,436	23,436	18,749	4,687	0

久米島町 23,436千円 → 委託料 23,436千円 → 夢芝プランニング（株） 23,436千円 → （仲里野球場・久米島野球場・多目的グラウンド芝生管理委）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般入札で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模はスポーツコンベンション事業を推進するうえで、妥当な規模である。 ○費目・使途については完了の際に検査・確認をしており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-①	島外保育士確保対策事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(2)-ア
					子ども・子育て支援の充実
担当部課名	福祉課	事業実施（予定）年度	令和3～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-4-(2)

事業内容	待機児童の解消に必要な保育士の確保を図るため、島外からの保育士誘致等を行う。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	□直接実施　■委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,400	3,500	4,070		
	(b) 予算現額	4,400	1,200	1,786		
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 2300	▲ 2284	0	0
	(d) 繰越額	0	0	0		
	A. 計 (b+d)	4,400	1,200	1,786	0	0
B. 執行済額		907	28	1,786		
うち交付金充当額		725	23	1,428		
次年度繰越額				0	0	0
執行率（%）(B/A)		20.6%	2.3%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明：当初見込んでいた保育士確保数（5名）に満たなかったこと、事業間流用を行ったことから予算を2,284千円減額した。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
島外保育士の渡航費、転居費の支援 県外2人、県内3人	目標	（8件）	（3件）	（5件）	（）
	実績	2件	1件	1件	
保育施設へ就労体験9人 （保育施設見学ツアー、合同就職説明会）	目標	（）	（）	（1件）	（）
	実績			1件	

達成状況説明：当初予定していた5名の保育士確保に向けて、沖縄本島開催の合同就職説明会や町ホームページ、沖縄県保育士・保育所支援センターホームページに掲載し周知を行ったが、確保は1名のみとなり1件の支援となった。
久米島島内の保育施設見学ツアー・合同就職説明会を2回開催し、17名の参加があった。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（R1年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（年度）
待機児童数 （保育所等利用待機児童数調査）	目標	（10人 R2.4.1時点）	（9人 R4.4.1時点）	（5人以下 R5.4.1時点）	（0人 R6.4.1時点）	（）
	実績		3人 R4.4.1時点	13人 R5.4.1時点	4人 R6.4.1時点	
【参考指標】	目標	（）	（）	（）	（）	（）
	実績					

進捗状況説明：・4名の待機児童が生じ、目標値を上回ったが前年度から9名解消できた。

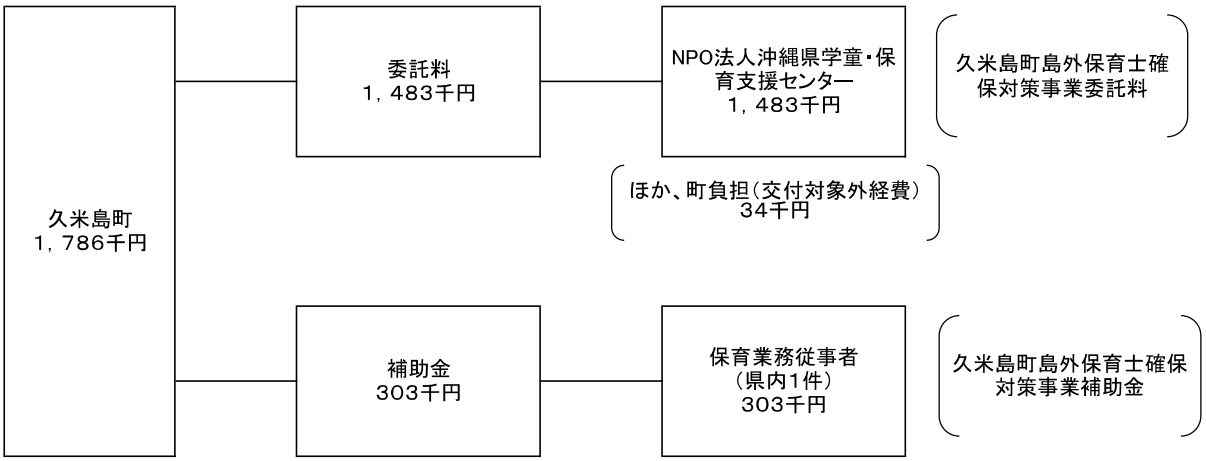
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・保育士必要数を確保できず、定員数の受入ができない状況になったことが目標値を上回った要因である。	・保育士を確保するために、保育施設見学ツアー・合同就職説明会を引き続き開催し、久米島町の保育施設ならびに長期間職に就けるよう離島における住環境を知る機会を作っていく。

今後の取り組み方針

・関係機関・専門学校等への広報を強化するとともに、保育施設見学ツアー・合同就職説明会を開催し、保育施設や住環境等を見学・体験してもらうことで保育士の確保につなげていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,820	1,786	1,428	358	34



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助支出先は、交付要綱に基づき選定しており、妥当であったと考える。委託支出先は他離島及び沖縄県内市町村での実績があり、また県内指定保育士養成校と常日頃から連携が取れている団体を選定しており、妥当であったと考える。 ○目標を達成するために必要とされる適正な予算規模になっている。 ○本町への赴任に必要な経費に対してのみ補助としている ○費目・使途についても、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-②	自主防災組織強化推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-（8）-イ 安全・安心な生活を支えるインフラの整備
担当部課名	久米島町消防本部	事業実施（予定）年度	令和５年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-10-（3）
事業内容	消防署から遠隔地に位置する自主防災組織の消防力の向上を図るため、現在設置されている消火栓を活用し消火活動が効率的に実施できる体制を整える。				
効果発現年度	■当年度　■後年度（R6年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,553	0			
	(b) 予算現額	4,893	0			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,660	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	4,893	0	0	0	0
	B. 執行済額	4,893	0			
	うち交付金充当額	3,914	0			
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		・計画どおり執行できた。				

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
格納箱・消防用資機材の設置	目　標	（　12ヶ所　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	12ヶ所			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	自主防災地域12カ所の消火栓に、ホース格納箱及び必要資器材を計画どおり設置完了。

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R　年度	R　年度	目標値（R6年度）
格納箱・消防用資機材の設置	目　標	（　）	（　設置　）	（　）	（　）	（　80%以上　）
	実　績		設置完了			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明	・令和6年度に実施する訓練において参加者にアンケートを行い効果を検証する。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・整備した資器材について、自主防災組織の方がきちんと操作できるように訓練を行い実際の災害に備えていく。	・令和6年度は2か月に1回程度の頻度で訓練の計画を立て、資器材取扱及び消火訓練を重点的に行う必要がある。

今後の取り組み方針

・資器材取扱及び消火訓練を通して、自主防災組織の今後の在り方や防災力向上に向け、地域との連携を深めていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,893	4,893	3,914	979	0

久米島町
4，893千円

備品購入費
4，893千円

株式会社イレイ
4，893千円

物品（消防資器材）購入

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先である地域防災組織は、地域防災目的に組織された公的機関であり、妥当であったと考える。 ○予算規模は地域防災の振興を図る上で必要な経費であり適正な規模であった。 ○費目・使途については精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-①	英語指導員配置事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章ー5ー(3)ーア 国際感覚を身に付ける教育の推進
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲー3ー(1)

事業内容	小学生の英語への興味・関心を高めるため、小学校に英語指導員を配置し、外国語授業等の支援を行う。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,632	7,046	7,296	11,356	10,509
	(b) 予算現額	6,735	7,183	7,677	11,356	10,197
	(c) 増減額 (b-a)	103	137	381	0	▲ 312
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	6,735	7,183	7,677	11,356	10,197
	B. 執行済額	6,735	7,183	7,650	9,967	10,118
	うち交付金充当額	5,388	5,746	6,120	7,973	8,094
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	99.6%	87.8%	99.2%

予算の状況の説明：概ね計画どおりに執行した。

活動目標（指標）及び達成状況

R4活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
英語指導員を配置し、外国語授業等での支援を実施	目標	（小学校2名）	（小学校2名）	（小学校2名 中学校1名）	（小学校2名 中学校1名）
	実績	小学校2名	小学校2名	小学校2名 中学校1名	小学校2名 中学校1名
	目標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実績				

達成状況説明：小学校6校に2名、中学校2校に1名、合計3人の日本人英語指導員を派遣し、外国語授業の支援を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（2年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（年度）
管内6小学校の児童が英語に対する興味・関心が高まったかの割合（%以上）	目標	（80）	（85）	（85%）	（85）	（　）
	実績		87	86	81	
管内2中学校の全国学力学習状況調査における平均正答率の全国との差（ﾎﾟｲﾝﾄ）	目標	（−2）	（−2）	（−2）	（−3）	（　）
	実績		0.6	−3.8	2.4	

進捗状況説明：
・目標値の85%を超えることはできなかったが、全国を11.8%上回っており、町内児童の英語に対する意欲は高い。
・R4年度の−3.8ポイントから6.2ポイントの上昇がみられた。
※前年度までは全国学力学習状況調査を成果指標にしていたが、英語が毎年の実施ではないため、指標を県到達度調査に変更

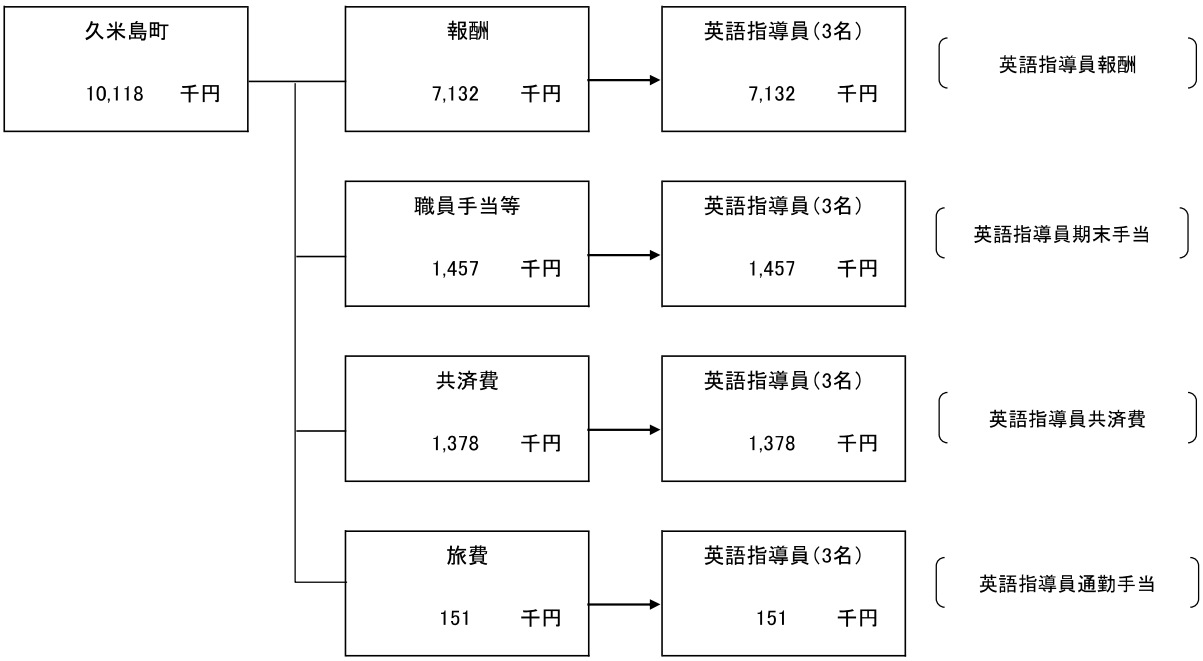
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・小学校はR4年度に引き続き2名で巡回支援を行ったが、英語を学ぶ意義を必ずしも十分に児童に伝えられなかったことが目標を下回った要因と考えられる。 ・中学校においては、英語指導員を活用した授業改善が進んでいることが目標を上回った要因と考えられる。	・児童に英語が使えることで広がる世界があることを伝える授業を行う必要がある。 ・授業内容によって英語指導員の活用の仕方を工夫する必要がある。

今後の取り組み方針

・町主催の研修会等で町児童生徒の英語の実態を共有し、小中の繋ぎを意識した授業改善に努める。
・担任との連携を密にするため、定期に打ち合わせを行えるように時間割を工夫するなどして、連携体制の構築、強化に努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,118	10,118	8,094	2,024	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、英語指導員を公募し、書類選考及び面接の上、採用しているため妥当と考える。 ○予算規模は、事業を推進するうえで、妥当な規模であったと考える。 ○会計年度任用職員給料表に基づき支出しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-②	基礎学力向上学習支援員配置事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章ー5ー(2)ーア 確かな学力を身に付ける学校教育の充実
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成26～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲー3ー(1)
事業内容	児童の学力向上を図るため、小学校に学習指導員を配置し、国語・算数を中心に学習未定着の児童を対象とした学習支援を行う。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　　年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,311	8,060	8,781	9,174	8, 712
	(b) 予算現額	7,311	8,319	8,763	9,196	7, 882
	(c) 増減額 (b-a)	0	259	▲ 18	22	▲ 830
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	7,311	8,319	8,763	9,196	7,882
	B. 執行済額	6,805	8,318	8,713	7,782	7,882
	うち交付金充当額	5,444	6,654	7,010	6,225	6,306
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		93.1%	100.0%	99.4%	84.6%	100.0%
予算の状況の説明		事業計画どおりに執行できた。				

活動目標（指標）及び達成状況

R4活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
基礎学力学習支援員を配置し、学習支援を実施	目　標	（　3名配置　）	（　3名配置　）	（　3名配置　）	（　3名配置　）
	実　績	3名配置	3名配置	3名配置	3名配置
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明	計画どおり小学校3校に3名の学習支援員を配置した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（　年度）
沖縄県到達度調査において、国語・算数における県平均正答率との差　高学年（5・6年生）	目　標	（　　）	（県平均＋2点以上）	（県平均＋7点以上）	（県平均±0%以上）	（　　）
	実　績		+3.7点	+5.1点	+2.1%	
学びのたしかめにおいて、算数における県平均正答率との差　中学年（4年生） ※R3,4年度までは、県到達度調査において、国語、算数におかる県平均との差（3・4年）	目　標	（　　）	（県平均＋2点以上）	（県平均＋6点以上）	（県平均＋5%以上）	（　　）
	実　績		+3.5点	+3.5点	+8.6%	

進捗状況説明	・高学年、中学年とも目標値を達成できた。 ※高学年の沖縄県到達度調査について、沖縄県からの調査結果が正答数、正答率で発表されるため、指標を得点差から正答率に変更 ※3・4年生の沖縄県到達度調査が廃止されたため、学びのたしかめ（4年生）に成果目標を変更

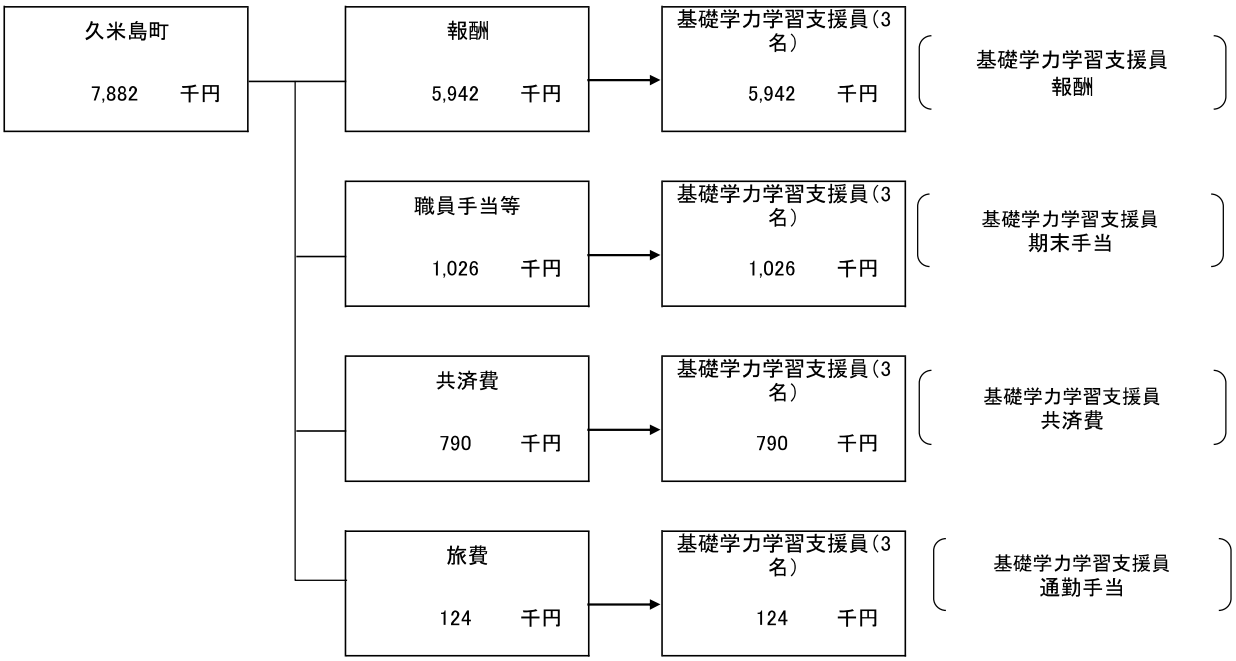
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・学級担任と支援員の連携がうまく図られ、支援を要する児童に寄り添った支援ができたことが目標を上回った要因と考えられる。	・学習支援を要する児童が増加傾向にあるので、それに対応できる協働体制の整備を行う。

今後の取り組み方針

・各種学力調査の結果を活用して学習支援を要する児童の落ち込みを分析し、より効果的な支援が行えるように学習支援計画の作成等を進めていけるようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,882	7,882	6,306	1,576	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、基礎学力向上指導員を公募し、書類選考及び面接の上、採用しているため妥当と考える。 ○予算規模は、事業を推進するうえで、妥当な規模であったと考える。 ○会計年度任用職員給料表に基づき支出しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-③	特別支援教育支援員配置事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章ー5ー(2)ーウ 個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成26～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲー3ー(1)
事業内容	特別な教育的支援を必要とする児童生徒の学校生活や学習上の困難の改善を図るため、特別支援教育支援員を各学校に配置する。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	33,649	39,818	36,819	39,088	36, 256
	(b) 予算現額	33,649	36,644	36,455	35,519	31, 372
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 3,174	▲ 364	▲ 3,569	▲ 4,884
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	33,649	36,644	36,455	35,519	31,372
B. 執行済額		32,299	35,051	31,616	29,453	31,372
うち交付金充当額		25,839	27,495	25,292	23,562	25,097
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		96.0%	95.7%	86.7%	82.9%	100.0%

予算の状況の説明：特別支援教育支援員について必要な人員を確保できず、当初予定より1名減となったため事業費を減額した。

活動目標（指標）及び達成状況

R4活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
特別支援教育支援員を配置し、必要とする児童生徒の支援を行う。	目　標	（小学校12名 中学校3名）	（小学校11名 中学校5名）	（小学校13名 中学校2名）	（小学校11名 中学校3名）
	実　績	小学校11名 中学校 5名	小学校9名 中学校7名	小学校11名 中学校2名	小学校10名 中学校3名
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：支援を必要とする児童生徒数を勘案し、小学校は目標11名に対して10名、中学校は目標3名に対して3名を配置した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（2年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（6年度）
特別支援教育支援員の対応への保護者の満足度	目　標	（　）	（85%以上）	（85%以上）	（89%以上）	（　）
	実　績		88%	87%	78%	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：・支援員配置に当たって、満足度に関するアンケートの結果は、78%であり目標値を下回った。

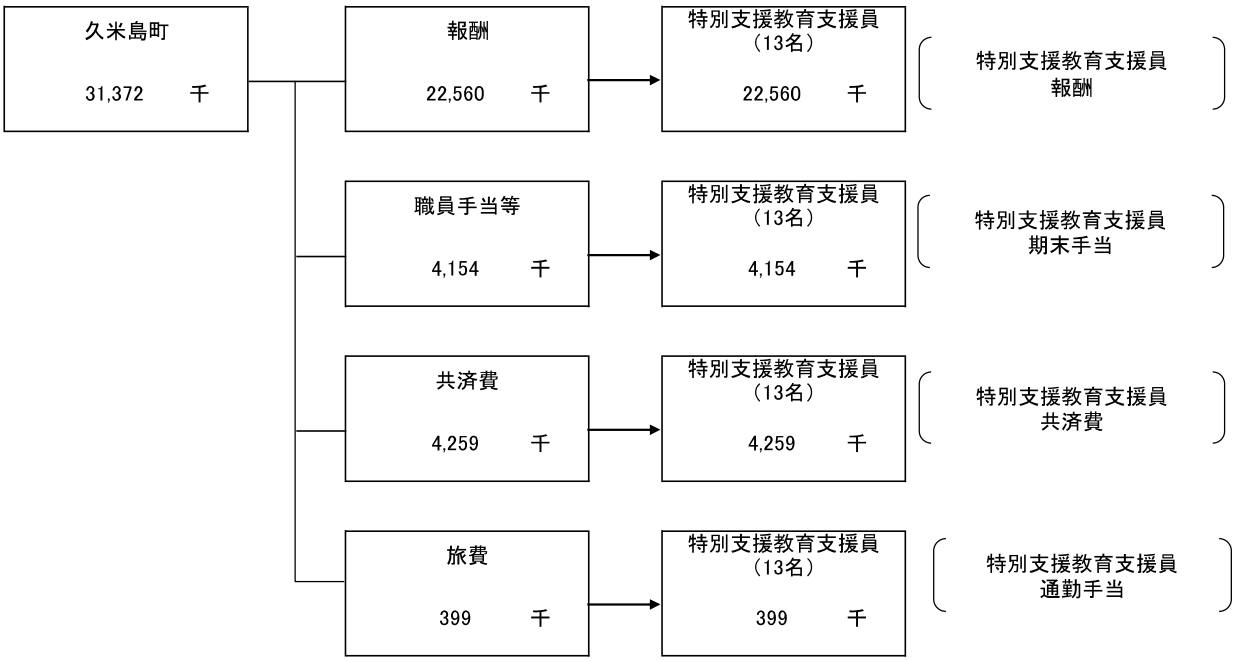
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・特別支援教育支援員の必要数を確保できず、児童生徒の特性に応じた十分な支援ができなかったこと、また保護者へ特別支援教育支援員の役割や支援内容の周知が不足していたことが目標値を下回った要因と考えられる。	・引き続き、特別支援教育支援員を適正に配置し、児童生徒に求められる支援内容に応じてきめ細やかに対応するほか、保護者向けに支援員の役割や支援内容を説明する文書を配布し、支援員に関する周知を図る必要がある。

今後の取り組み方針

・毎年、特別支援員の人材確保に苦慮しているため、町内外を問わず町役場情報媒体（HP,ライン等）を活用し募集活動を強化するとともに、保護者向けに丁寧な説明を行うことで児童生徒の特性に応じたよりきめ細やかな支援が行えるようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
31,372	31,372	25,097	6,275	0



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、特別支援教育支援員を公募し、書類選考及び面接の上、採用しているため妥当と考える。 ○予算規模は、事業を推進するうえで、妥当な規模であったと考える。 ○会計年度任用職員給料表に基づき支出しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-④	児童・生徒各種大会派遣支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア 公平な教育機会の確保と学習環境の充実
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成27～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容	中学校の課外活動として島外で開催される各種大会・コンクールへ参加させることで島外の人との競争や交流の機会を確保し、生徒に広い視野を持たせるため、渡航費及び宿泊費の一部を補助する。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,720	6,767	6,716	6, 596	6, 526
	(b) 予算現額	6,720	5,064	5,574	5, 796	7, 151
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 1,703	▲ 1,142	▲ 800	625
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	6,720	5,064	5,574	5,796	7,151
B. 執行済額		5,414	4,079	4,983	5,507	7,151
うち交付金充当額		4,331	3,262	3,987	4,406	5,721
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		80.6%	80.5%	89.4%	95.0%	100.0%

予算の状況の説明：コロナ前と同様に各種大会等に派遣することを見込んで当初予算額を算出したが、地区代表として県大会への派遣を追加決定したことにより626千円を増額した。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
中学校の課外学習である久米島町外開催の各種大会等への渡航費用等への補助金支給	目　標	（派遣延べ人数 620名）	（派遣延べ人数 610名）	（派遣延べ人数 590名）	（派遣延べ人数 573名）
	実　績	409名補助	492名補助	539名補助	612名補助
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：当初目標（派遣補助支給延べ人数）は前年度実績を踏まえ573名としていたが、新型コロナウイルス感染症の規制が緩和されたことを受け、体育会系各種大会や文化系コンクール等へ延べ総数612名に対し補助金を支給した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（　年度）
派遣によって生徒の視野が広がったかを含め、生徒の保護者に対してアンケートを行い、本事業のあり方を検証する。	目　標	（　）	（80%以上）	（80%以上）	（80%以上）	（　）
	実　績		84%	83%	90%	
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：・久米島町管内中学校に在籍する生徒で、派遣費補助を受けた保護者に対してアンケートを実施したところ、回答総数101名のうち91名（90%）から派遣に対して肯定的意見を得られた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・町内の中学校は2校となっていることから、大会等への派遣は子供にとって貴重な体験となっているほか、補助金があることで経済的負担の軽減につながり、子供たちのチャレンジへの後押しとなっていることが目標を上回った要因と考えられる。	・生徒数の減少に伴い一人の生徒が複数の部活動において各種大会等に出場するなど一人当たりの派遣回数の増加により保護者の経済的負担が大きくなりつつあるため、引き続き、補助金を支給することで生徒の視野を広げる機会を確保する必要がある。

今後の取り組み方針

・学校と連携して対象となる大会等に参加する児童生徒に確実に支援をしていく。また、部活動の地域移行の流れを受け、中体連・中文連以外の他団体が主催する類似大会への参加も予想されることから、補助金交付要綱及び補助対象の大会等を見直し生徒の視野を広げる機会を確保していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,151	7,151	5,721	1,430	0

久米島町 7,151千円 → 補助金 7,151千円 → 学校 7,151千円 → 保護者 7,151千円

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は交付要綱に基づき決定しており、妥当である。 ○補助金交付対象の大会、参加人数、旅程等の派遣計画に見合った予算規模であった。 ○受益者には応分の自己負担も発生しているため妥当である。 ○費目・使途について実績報告書で審査し、真に必要なものと判断した（類似する補助が出るものについては対象外としている）。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-⑤	小中アシスト相談員事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章ー5ー(2)ーイ 豊かな心と健やかな体を育む学校教育の推進
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	令和4～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲー3ー(1)

事業内容	不登校児童生徒の登校復帰、不登校者数の減少を目的として、小学校、中学校にアシスト相談員を配置する。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　　年度）
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,367	5,213			
	(b) 予算現額	2,399	4,633			
	(c) 増減額 (b-a)	32	▲ 580	0	0	0
	(d) 繰越額					0
	A. 計 (b+d)	2,399	4,633	0	0	0
B. 執行済額		2,013	4,633			
うち交付金充当額		1,610	3,706			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		83.9%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明：事業計画どおりに執行した。

活動目標（指標）及び達成状況

R4活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
小中アシスト相談員を配置し、登校支援を実施	目　標	（1名配置）	（2名配置）	（　）	（　）
	実　績	1名配置	2名配置		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：計画どおりアシスト相談員を2名配置した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（2年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
不登校率の減少	目　標	（　）	（6%）	（4%）	（　）	（　）
	実　績		4.6%	6.1%		
不登校者数	目　標	（　）	（16人）	（20人）	（　）	（　）
	実　績		24人	20人		

進捗状況説明：不登校率の減少については、目標値を上回ったものの、登校復帰を果たした児童が1名、町内関係機関とつながった児童生徒もいた。
※不登校者数減少率の成果指標を、より効果の検証がしやすい不登校率の減少に変更

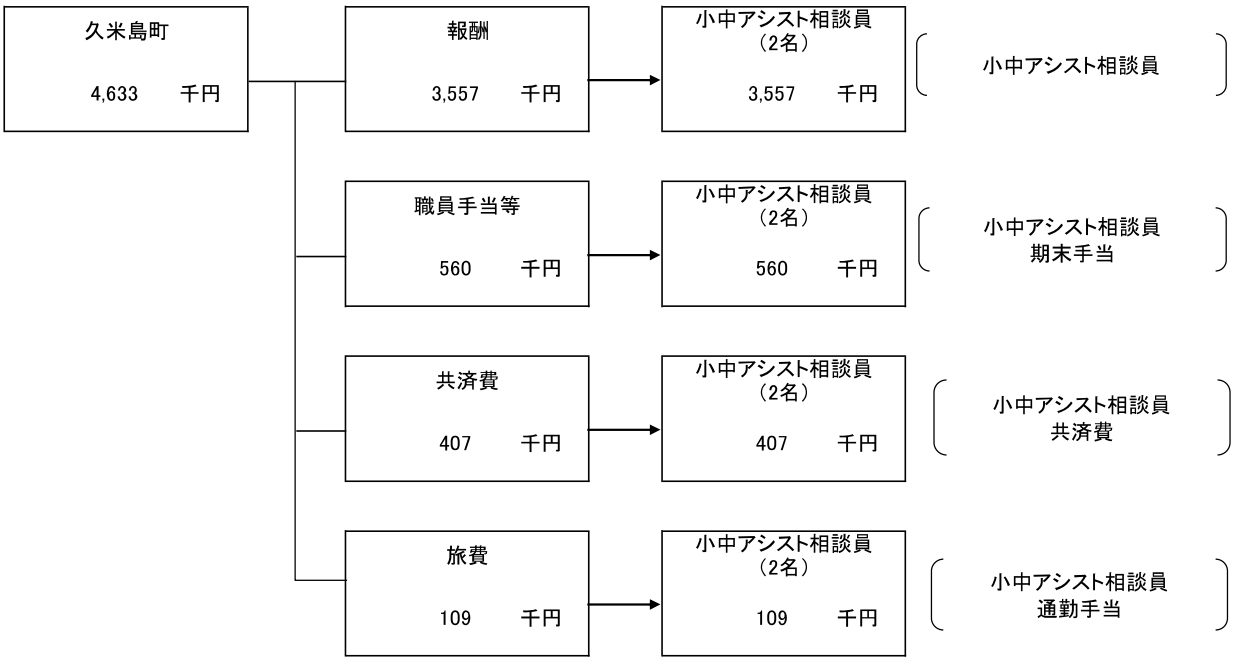
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	小中アシスト相談員の積極的な家庭訪問等による関りを通して、登校復帰を果たせた児童が1名、関係機関とつながることができた児童生徒が9名いることから、引き続き支援を継続することで改善につながっていくと考えられる。	不登校の未然防止、初期対応の時点から関わることで、不登校になる手前で抑えられるようにする必要がある。

今後の取り組み方針

各学校の養護教諭と連携して欠席状況等を把握し、未然防止、初期対応に向け児童生徒との関係作りができるようにする。また、定期に近隣校を回り各学校の状況を把握し、情報共有に努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,633	4,633	3,706	927	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、アシスト相談員を公募し、書類選考及び面接の上、採用しているため妥当と考える。 ○予算規模は、事業を推進するうえで、妥当な規模であったと考える。 ○会計年度任用職員給料表に基づき支出しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-⑥	ホームステイ等派遣事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	4章-5-(3)-ア 国際感覚を身に付ける教育の推進
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	令和5～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-7

事業内容	次世代を担う若者の語学力の向上や異文化への理解を深めさせるため、海外ホームステイ派遣及び島内在住外国人宅へホームステイ派遣を実施する。
効果発現年度	■当年度　■後年度（7年度）
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,736				
	(b) 予算現額	1,877				
	(c) 増減額 (b-a)	141	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	1,877	0	0	0	0
B. 執行済額		1,877				
うち交付金充当額		1,502				
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明：派遣人数に減少はあったものの計画どおり取組を実施し適正に執行できたと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
海外ホームステイ派遣2名	目標	（2）	（　）	（　）	（　）
	実績	2			
島内ホームステイ派遣12名	目標	（12）	（　）	（　）	（　）
	実績	10			

達成状況説明：
海外ホームステイに中学生2名を派遣することができた。
島内ホームステイに小学生12名派遣予定だったが、体調不良等により2名が不参加となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（年度）
・国際的な視野が広がった生徒の割合：80%以上	目標	（－）	（80%）	（　）	（　）	（　）
	実績		80%			
・英語に対する学習意欲向上生徒の割合：85%以上	目標	（－）	（85%）	（　）	（　）	（　）
	実績		85%			

進捗状況説明：
・参加者に対して、ホストファミリー、プログラム内容、英語のコミュニケーション力、英語に対する意欲、海外に対する興味等についてアンケート調査を実施したところ、ほとんどの項目が肯定的な回答であった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・学習の進捗状況や語学力に応じたプログラムを中学生と小学生それぞれに提供できたことが目標を上回った要因と考えられる。また、小学生は中学生の海外ホームステイに向けて外国語学習に取り組みたいとの意見もあり学習意欲の向上が見受けられた。	・島内ホームステイの募集は、学校の在籍人数によって希望者の変動が生じたことから、参加枠を在籍人数に応じて調整することで、各学校における参加者の希望を叶えられる配慮が必要である。

今後の取り組み方針

・各学校で派遣枠を調整できるように、教育委員会・学校長・英語専科で協議を行う。学校の在籍人数に応じた参加者とすることで、各ホームステイで体験したことを発表しやすい環境を整え、学校全体の外国語に対する興味関心の向上を図っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,877	1,877	1,502	375	0

久米島町
1,877千円

委託料
1,391千円

株式会社
南日本カルチャーセンター
1,391千円

海外ホームステイ派遣事業業務委託
・中学校夏季休暇中のホームステイ実施
・ホストファミリーの選定及び調整
・航空券の手配

委託料
486千円

Tom and Rimi's guesthouse & EnglishHomestay
486千円

EnglishCampinKumejima2023
派遣事業業務委託
・島内小学生のホームステイ実施
・報告書の作成
・その他事業実施に係る業務

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○海外ホームステイは、新興感染症の影響により事業を実施しない事業者が多い中、本町をはじめ他離島でも実績があり、金十字の対応を含め円滑に調整等を行うことができる事業者、島内ホームステイについては、町内唯一本事業の受入れが可能な事業者を選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額はなく適正な規模であった。 ○費目、使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか、実績書類により確認し、適正と判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-⑦	久米島現代版組踊り推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-イ 文化芸術の振興と文化芸術を支える環境づくり
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(3)

事業内容	小中高生を中心とした地域の若者達が、本町の歴史を題材とした現代版組踊りを沖縄県内で演じ、地域の魅力を発信する。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,343				
	(b) 予算現額	5,343				
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	5,343	0	0	0	0
B. 執行済額		5,343				
うち交付金充当額		4,275				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		計画どおり取組を実施し適正な執行ができたと考えている。				

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
小中高校生による現代版組踊公演（回）	目標	（2）	（　）	（　）	（　）
	実績	2			
島内各種イベント出演（回）	目標	（6）	（　）	（　）	（　）
	実績	8			

達成状況説明：
・久米島の小中高生35名による、久米島の歴史的遺産にスポットをあてた現代版組踊りを公演を久米島町内で1回、那覇市内で1回開催した。
・「夏まつり」や「車エビフェスタ」等の島外から観光客が多数訪れる催しに8回出演し、ダンス等を披露することで、島の歴史的文化として地域の魅力を発信することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（年度）
舞台公演の入場者へのアンケートで、歴史や文化に対する興味関心が高まった割合	目標	（　）	（80%）	（－）	（　）	（　）
	実績		80%	－		
【参考指標】	目標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実績					

進捗状況説明：
・小学生、中学生、高校生計35名によって、12月に沖縄本島、久米島の各会場において昼、夜2回（計4回）の公演を開催したほか、島内の地域行事やイベントに8回出演しダンス等を披露したことにより目標を達成できた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・久米島の歴史を題材とする舞台を久米島町の児童生徒が稽古に励み各公演においてしっかり表現でき、来場者を魅了する舞台になったことが目標を達成した要因と考えられる。	・久米島町内や沖縄本島の公演はもとより、本町出身の郷友会の方々から県外での公演を望む声がある一方、進学や就職に起因する年度毎の参加する児童生徒数（演者）の変動や、公演に係る費用の捻出、運営体制の強化といった課題の改善が必要である。

今後の取り組み方針

・出演対象である中高生のメンバー構成が偏らないように小学生など将来メンバーとなる児童に興味を抱かせる働きかけや、活動を運営・支援する組織の役割分担等を見直し、安定した舞台公演や島外公演が継続できるよう取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,344	5,344	4,275	1,069	0

久米島町
5，344千円

委託料
5，344千円

一般社団法人
TAO factory
5，344千円

久米島現代版組踊推進事業業務委託
・演技、ダンスの指導
・公演に係るプロデュース、運営全般

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本事業の演技・演出指導ができる唯一の事業者を選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額はなく適正な規模であった。 ○費目、使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか、実績書類により確認し、適正と判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-⑧	学校ICT活用支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア
					確かな学力を身に付ける学校教育の充実
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	令和5～令和12年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容

町内8小・中学校において、ICT機器を活用した分かりやすい授業が実施できるよう、教職員のICT機器の活用をサポートするICT支援する支援員を配置する。また、授業をさらに効果的なものにするために電子黒板等のICT機器を整備する。

効果発現年度

■当年度　□後年度（令和　年度）

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,600				
	(b) 予算現額	54,296				
	(c) 増減額 (b-a)	47,696	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0				0
	A. 計 (b+d)	54,296	0	0	0	0
B. 執行済額		54,296				
うち交付金充当額		43,436				
次年度繰越額		0				0
執行率（%）(B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明：電子黒板を導入する必要が生じたため、予算を48,645千円を増額した。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
町内8小中学校にICT支援員1名を配置する	目　標	（1名配置）	（　）	（　）	（　）
	実　績	1名配置			
町内8小中学校に電子黒板等のICT機器整備する	目　標	（52台整備）	（　）	（　）	（　）
	実　績	52台整備			

達成状況説明

・ICT支援員を1名配置し、各学校へ現地訪問を行った。
・町内8小中学校に52台の電子黒板を整備した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（R5年度）	R5年度	R7年度	R8年度	目標値（R9年度）
ICT活用により授業がわかりやすかったと答えた児童生徒の割合	目　標	（80%以上）	（80%以上）	（　）	（　）	（　）
	実　績		85.4%			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

・ICT活用に関するアンケートを各小中学校の児童生徒向けに3月に実施し、628名の回答を集計した結果、目標である80%以上の、ICT活用により授業がわかりやすかったとの回答が得られた。

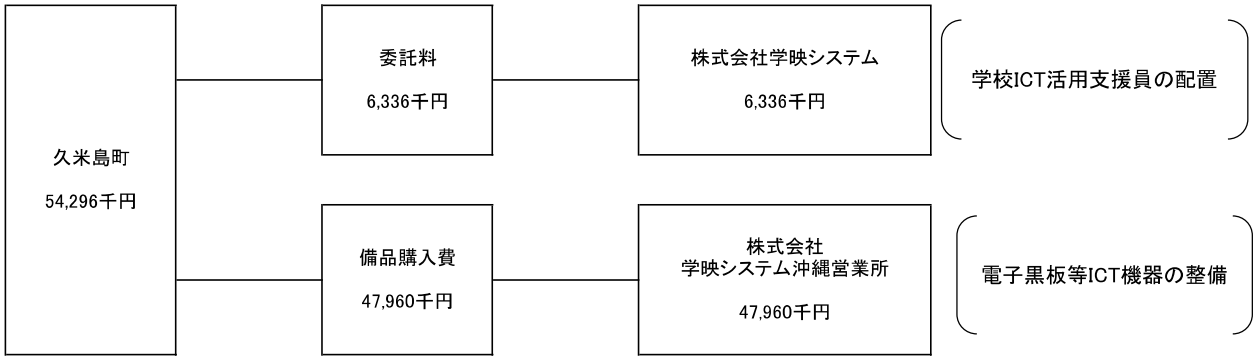
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・ICT支援員による支援、サポートデスクによる支援により、教職員がICT機器を活用した分かりやすい授業を実施できたことが目標値を上回った主な要因と考えられるが、ICT活用により授業がわかりやすかったと回答しなかった児童生徒も生じた。	・ICT機器を活用した分かりやすい授業が実施できるよう、ICT支援員の学校訪問時以外も、サポートデスクを活用する。また、ICT活用に苦手意識がある児童生徒に、支援を工夫する必要がある。

今後の取り組み方針

・児童生徒が取り組みやすいICT活用の支援を、ICT支援員の訪問の際に行う。支援員の訪問以外は、サポートデスクの活用を強化する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
54,296	54,296	43,436	10,860	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はプロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額はなく適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	